

19
(追加資料 25.2.20) | イエス・キリストを源泉にして聖書全体を

聖ボナベントゥラ司教の講話

聖書の起源は、人間の探求にあるのではなく、神の啓示にある。神の啓示の源泉は、「光の源^{みなもと}である父」であり、この「御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられている。」御父から、御子^{おんこ}イエス・キリストを通して、わたしたちに聖霊が注がれる。そして、望むままに賜物^{たまもの}を一人ひとりに分け与えてくださる聖霊によって、信仰が与えられる。そしてこの信仰によって、わたしたちの心のうちにキリストが住まわれる。これがイエス・キリストを知ることであり、この知識を源泉として、聖書全体への確信と理解にいたる。したがって、キリストへの信仰が、まず先に人々の心に注ぎ込まなければ、聖書を理解するために聖書の中に踏み込むことは不可能である。このキリストへの信仰こそ、聖書全体の灯であり、門であり、土台でもある。わたしたちが主から離れて暮らしている間も、この信仰がまさにあらゆる超自然的な証明の基礎^すを据えるもの、その道程^{どうてい}を照らす灯、そこへ導き入れる門である。そして、この信仰の度合いに応じて、わたしたちに神から与えられた知恵を生きねばならない。「過度に知恵に没頭せず、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎重に知恵を追求する（ローマ 12:3 参照）」ためである。

聖書の成果、あるいは実りは、ありきたりのものではなく、まさに永遠の幸福の充満である。それは、聖書が永遠のいのちのことばを収めているかである。

聖書が編集されたのは、ただ単にわたしたちが信じるためだけでなく、永遠のいのち（ヨハネ 17:3 参照）を得るためでもある。それを得て、わたしたちはあたかも神を見、愛し、そこでわたしたちの願望は完全に満たされる（ペトロの手紙一 1:8-9 参照）。わたしたちの願望が満たされたとき、そのときわたしたちは、「知識をはるかに超える愛を知り（エフェソ 3:19 参照）」、こうして

「神の満ちあふれる豊かさのすべてに（エフェソ 3:19 参照）」満たされるであろう。使徒パウロのこの真実のことばによれば、この満ちあふれる豊かさへとわたしたちを導くために、聖書は全力を尽くしている。従って、この目的、この意図^{いとう}をもって聖書は吟味され、伝授^{でんじゆ}され、聴かれねばならない。つまり、混じりけのない信仰によって光の源である父のもとに近づいて、御父が御子をとおして聖霊において、イエス・キリストについての真の認識を与えてくださるよう祈り、その認識と共にキリストへの愛を、与えてくださるよう祈る。

こうして、キリストを知り、愛する者となる。